

日立GEニュークリア・エネルギー技術見学会を開催（2月22日）

原子力エネルギーは、2050年カーボンニュートラル実現に向けての確立した脱炭素技術であるとともに、安全性の確保を大前提に、長期的なエネルギー需要構造の安定性に寄与する重要なベースロードの電源として位置付けられています。

現在、次世代革新炉の開発・建設や既存施設の活用など、国のグリーントランスフォーメーションに係る議論が加速化しております。今後の原子力研究開発の推進に期待が寄せられており、その動向や技術を知るため、原子力プラントメーカーである日立GEニュークリア・エネルギー（株）殿(HGNE)の臨海工場の技術見学会を令和5年2月22日に実施しました。

本見学会では、HGNE殿の現状、次世代新型炉のコンセプト、原子力の今後の在り方などについてご説明いただいた後、大間原子力発電所向けに製造した原子炉圧力容器内の機材や使用済み燃料を運搬するキャスクを見学しました。通常を見ることのできない上部シュラウドや燃料集合体の筐体など大型高精度の製造品を見ることができ、さらに製作技術を継承するための社内教育や技能オリンピックへの取組についても説明をいただきました。講演、見学ともに興味深い内容で見学後に行われた質疑応答も活発でした。

実施後の参加会員へのアンケートでも、回答者全員が大型精密加工技術やその技術力維持への取組に興味を抱き、参加してよかったと好評でした。参加者は会員企業12社（13名）、ひたちなかテクノセンターと県の関係者8名、計21名でした。

来年度も同様の技術見学会を計画しますので、奮ってご参加をお願いします。

会員企業による受注状況の報告

毎週1回、原子力機構、高工ネ研、量研機構、CROSSからの入札情報を配信しています。本年度は49回（R5.3.24現在）の入札情報を発信し、会員企業の皆様の受注金額の合計は3月まで判明分で36.2億円に上り、昨年の39.4億円(年度末実績)に引き続き30億円を超えました。受注件数は252件と令和3年度の186件と比べ大幅に増加しました。

令和4年度全体の結果がまとまるのは令和5年6月頃になりますが、過去の実績を大きく上回ることが期待されます。なお、本年度実施したアンケートでは会員の半数の方に入札情報をご活用いただいております。これからも皆様のお役に立つ情報を配信してまいりますので、ぜひともご活用ください。

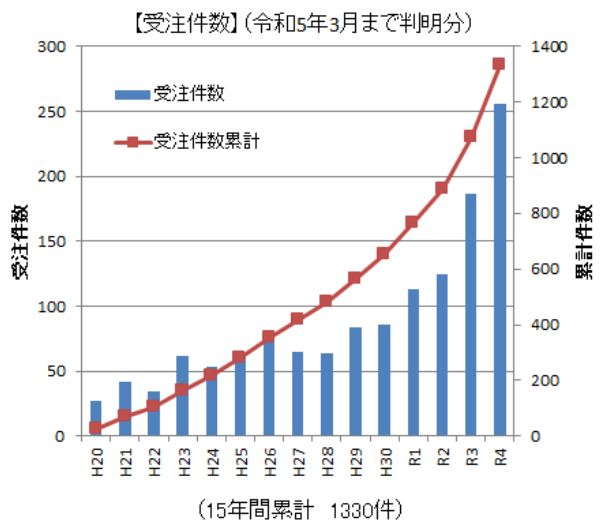


図1 受注件数の推移

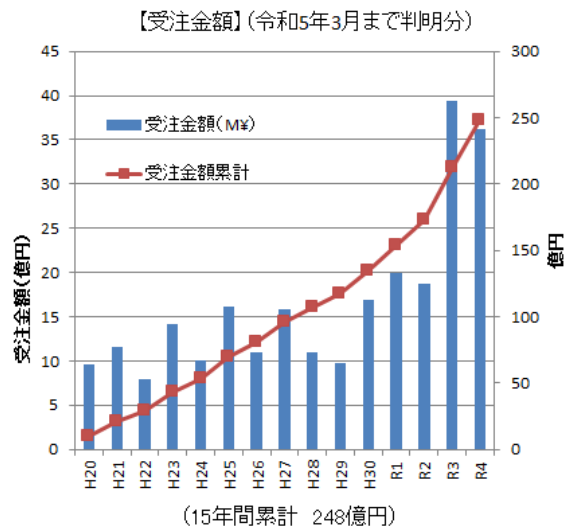


図2 受注金額の推移



写真1 HGNE殿のご説明状況